



美しく素朴で丈夫な漆塗りと高い実用性を備えた器
郷原漆器



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	ごうばらしっき
所在地	真庭市蒜山上福田(郷原漆器の館)
指定年月日	平成18年3月17日
解説	蒜山地方の郷原に伝わった伝統的な漆器製作技術で、資料によると、江戸時代中期頃から盛んに生産され、主に山陰方面へ出荷された。輪切りにしたクリの原木を生木のままろくろで挽き、乾燥させた後に、黒又は朱漆を薄く塗って拭き取る拭漆技法の仕上げが特徴。木目を生かし、しっかりした塗りと高い実用性の椀・皿・鉢などが製作される。戦後に一端途絶えたが、関係者の努力により平成になって復興され、技術・技法の伝承に努められている。
アクセス方法	【郷原漆器の館】蒜山ICから車で5分
公開状況	入場:9:00~17:00 / 無料 / 休館:木曜日 / 問:0867-66-5611
設備	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <small>駐車場</small>  </div> <div style="text-align: center;"> <small>トイレ</small>  </div> </div>
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	郷原漆器
よみかた	ごうばらしつき
しよざいち (所在地)	真庭市蒜山上福田(郷原漆器の館)
していたひ (指定した日)	平成18年3月17日
せつめい	蒜山地方(ひるぜんちほう)でおよそ600年の歴史(れきし)をもつといわれている伝統的(でんとうてき)な器(うつわ)です。クリの原木(げんぼく)を生(なま)のまま形(かたち)にして、黒色や朱(あか)色の漆(うるし)を塗(ぬ)って仕上げます。しっかりと塗られ、器自体もとても丈夫に作られています。一端(いったん)後継者(こうけいしゃ)がいなくて作る人がいみせんでしたが、平成(へいせい)になってふたたび作られるようになりました。